

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6 年 3 月 30 日

公表:令和 6 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘豊橋

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1つの部屋に人数が多くなってしまった場合は多目的室を開けたり戸外に出たりして遊んでいる。 子どもが密集しないよう、遊ぶ場所(おもちゃを出す場所)を考えて配置している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		人員は適切にしつつ子どもの特性により、ずっとついたり遠くから見守るなど判断しながら支援している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		自立課題の写真カードを子どもが自分で選び、職員と借りに行つて遊べるようになっている。 おもちゃなど一緒に片付けをし、心地よく過ごせるようにその都度環境を整えている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			いただいたご意見、集計等を職員間で把握、検討をし、業務改善につなげていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在外部評価は受けていないので、今後検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内で施設をまたいだ研修を行っている。	法人内だけでなく外部の研修要項も職員に周知するとともに、今後も職員が受けたい研修にできる限り参加できるように、勤務の調整等行っています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたアセスメントツールよりも、目の前の子ども一人ひとりの発達や特性を重視した支援をしています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		こまめに計画を確認するようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもたちから上がった遊びなどを周りと共有し、一緒に楽しむようにしている。 職員間で案を出したり子どもからの声を拾ったりしながら固定化されないように努めている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	△	活動など設定した遊びの際には、時間や役割などを予め決めるとともに活動の際にも確認をしている。 必要に応じて会議や話し合いを行っているが、その都度臨機応変に考えても動いている。 なかなか全職員で話し合う時間が取れず、内容や子ども、職員の動きが曖昧になったまま活動を迎えてしまうことがあるため、打ち合わせは口頭だけでなく紙などを使って行い全職員が確認できるようにしたい。	話し合いの時間はしっかり持っていると感じますが、出勤時間によっては一部職員には口頭伝達になりきちんと共有できていないこともあります。ICTを活用したり、書面に残していつでも確認できるようにするなど、全職員の把握につながる方法を考え行っています。	

関係機関や保護者との連携	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	△	分らなかったことがあれば、その都度職員同士で確認をしている。その日に起きた出来事は、その日のうちに職員間で共有している。全職員で話し合う時間は取れていないので、振り返りは口頭だけでなく紙などを使って行い全職員が確認できるようにしたい。	特記すべき子どもに対する支援や様子はケア記録として残すことになっていますが、話し合いだけで終わってしまっていることも多いので、できる限り記録として残すように職員間で周知していきたいと思います。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	△		月に1度もしくは2か月に1度、こども園等と連携会議を行っている。	移行支援にはつながっていませんが、希望の丘に通いながら就園をする利用児に対して、就園先のこども園と様子の共有や個別支援計画についての話し合いを行い、相互理解を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	△			小学校から問い合わせがある形で情報共有等を行っているが、今後ケースによっては積極的に連絡を取るよう努めます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修などに積極的に参加していきたい。	管理者(児童発達支援管理責任者)は相談をしたり助言を受けたりすることができていますが、その他の職員は直接的な機会が持ていないので検討します。より多くの研修が受けられるように機会を設けます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		こども園に通いながら通所している子がほとんどである。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	分からない。	年に3回ほど開催されるこども通所支援事業所連絡会には参加をさせてもらっています。自立支援協議会は機会があれば参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		クラウドサービスを導入し、写真と文章で丁寧に子どもの状況を伝えている。クラウドサービスの記録と共に、その日あった出来事(成長部分や課題など)を迎えに来た保護者に話すようにしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	△	○	プログラムとしては不十分だが、日頃からコミュニケーションをしっかりと取り助言・提案を行っている	プログラムとしての支援は行っていません。必要な方へはその都度一緒に考えたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	イベントの開催時、保護者交流の時間を設けている。 イベントにて保護者の交流会を設けている。	イベントの交流会だけでなく、今後もいろいろな工夫を加えながら保護者交流の機会を設けていきたいと思っています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	メッセージのやり取りの際は個人名を出さない。 個人ファイルを外から見えないようにするなど対策をしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域にはあまり知られていないと思う。 分からない。	見学はいつでも受け入れを行っていますが、事業所の行事への招待等については行っていませんので、どのような形なら実施が可能か今後検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	日々過ごしている中で“こういう危険があるかもしれない”と常にイメージして子どもたちに伝えるようにしている。 日々の活動の中でヒヤリハットの共有をしていきたい。	職員の目に毎日触れる所へ掲示しています。 職員みんなで検討し、定期的に内容の確認・更新をしていきたいと思っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束を検討する利用児の保護者に説明し、本人と保護者に同意を得た上で実施するとともに、定期的なカンファレンスで解除について検討を行っています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。